

# 令和4年度 学校評価報告書

学校名	三田市立弥生小学校
-----	-----------

## 1 学校教育目標

自ら学び たくましく 心豊かな弥生っ子の育成  
～やさしい子 よく学ぶ子 いつも元気な子～

## 2 今年度の学校重点目標

1 安心・安全な環境づくり 2 学力の向上 3 保護者・地域とともに

## 3 総合的な自己評価

校内授業研究を中心にして推進することで、教職員の授業力・指導力の向上が図れた。また、小規模校の良さを生かした児童理解研修やケース会議を重ねることで、生徒指導や支援が必要な児童に対する対応を共有し、組織的・機動的チームとしての取り組みを継続している。

## 4 総合的な学校関係者評価

学校だよりや学校ホームページ、地域での子どもの姿や、地域行事への参加率、学校行事や参観授業や掲示物で信頼される開かれた学校づくりをめざしていることが分かる。その育成の一役を地域も担っていると自負している。児童理解や生活指導の充実をお願いしたい。

## 5 評価結果

自己評価			学校関係者評価	
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
組織運営 ・情報提供	学校教育目標、学年目標の実現をめざして、適切に教育活動に取り組んでいる。	「よくできた」10%「できた」80% 『学校で楽しみな行事はありますか』児童 89% ○コロナ禍で制限が多い中、創意と工夫で試行錯誤しながら目標実現をめざし、成果が見られた。	○善い行いや頑張っている姿を認め、その価値を広める。気になる態度を見逃さない。情報共有することで、全教職員同様の対応をめざす。 ○教職員のさらなる授業力・指導力を向上させる。	運動会の開閉会式や演技の際にマスクを外させていたのは適切だと思う。昨年できなかった得点を競う競技や参加人数緩和など学校の前向きな対応が感じられた。
	開かれた学校づくりを推進するために、学校の情報を積極的に保護者や地域に発信し、信頼関係の構築に取り組んでいる。	「よくできた」100% 『お子さんの様子がよく分かりますか』保護者 99% ○学校だよりやホームページの更新が増えた。 ○保護者や地域(弥生が丘自治会)と連携し、時期や内容を検討しながら推進することができた。	○今年度の年間計画を見直し、カリキュラムマネジメントの視点で次年度へ引き継ぐ体制を継続。 ○学校ホームページ「きりり☆弥生っ子」継続。 ○年間計画の段階から学校・地域・保護者の連携を見据えた学校行事の検討を行った。 ○学校からの要望を地域へ発信し、協力を得る。	来年度の年間計画を学校地域運営協議会で調整するなど、学校が地域と共に歩む姿勢が見られ、地域としても学校と協力しながら地域の活性化を図ることができている。双方のホームページや広報誌でその様子を発信できる関係性を継続したい。
教育課程 ・学習指導	学習指導要領および年間指導計画をもとに、各教科・領域における時数の確保ができ、適切に学習活動を進めている。	「よくできた」100% 『学校は地域や保護者との連携を大切にして教育を進めようとしている』保護者 97% ○教科横断的なカリキュラム・マネジメントにより、効率よく主体的・対話的で深い学びを進めている。	○OJT研修を重ねながら、一人1端末活用を計画的に推進すると同時に、児童や保護者への情報モラル教育を実施する。 ○今後も学校司書と担任などとの連携を図り、読書を楽しむ児童の育成をめざす。	参観日の国語授業に学校支援ボランティアとして参加しました。いつもの声がでない児童もいましたが、こういう機会が増えることで発表が上手になるだろうという期待の方が大きかったです。
	基礎・基本の定着をめざした、朝学習や学習タイム、放課後がんばりタイムの実施は、個に応じた工夫が見られる。	「よくできた」10%「できた」90% 『進んで宿題や調べ学習をしている』児童 74%、保護者 74% ○朝学習や学習タイムを継続的に行うことで、基礎的・基本的な知識技能の定着が図れている。	○iPad活用方法を試行錯誤しながら、基礎的・基本的な知識技能の定着にとどまらず、個に応じた課題解決学習に向けて、個別最適化の学び推進 ○児童が思考ツールや新聞活用することで、主体的で対話的な深い学びが得られる学習を重ねる。	朝学習や学習タイムで、読み聞かせや思考ツール、新聞活用、ドリルパーク学習を継続しているので、学年が進むにつれ基礎的・基本的な知識技能の定着や学びに向かう姿勢の定着が見られて嬉しい。
課題教育 (特別支援 ・人権)	ユニバーサルデザインを活かした学習環境を一人一人の支援とした弥生スタンダードを全学年共有し改善を図っている。	「よくできた」10%「できた」90% ○弥生スタンダード授業が日常化されつつある。児童が思考ツールやiPadを活用することで、ペアやグループでの意見交流が活発になっている。また、ミライシードを使って、学年を越えて意見交流できる機会を継続できた。	○児童理解の視点で、有効な支援や適切な評価、改善を図るケース会議を継続する。 ○通常学級における合理的配慮や多様な学びの場の設定など、一人ひとりの良さや可能性を見だし、それを伸ばす「個別最適化学び」と「協働的な学び」の一体的に充実させる。	授業参観だけでなく普段から1年生でもiPadを活用している様子が見られる。家庭生活も様変わりしていると思われるので、情報モラル教育や「ハイテク・キッズ優良っ子 ネット☆スマホ憲法」順守をお願いしたい。
	全ての教育活動で人権教育の実践を行い、互いの違いを認め合い仲間を大切にする学習を継続している。	「よくできた」20%「できた」80% 『人の話をよく聞き、自分の伝えたいことを言える』児童 79%、保護者 87% 『友だちと仲良くしている』児童 98%保護者 100% ○困っている児童に寄り添える教職員をめざした。	○「三田市人権を尊重し多様性を認め合う共生社会を目指す条例」施行にともない、教職員の人権意識の向上を図り、教育・啓発活動を推進する。 ○授業公開の有無にかかわらず、道徳や人権教育、課題教育を系統的・計画的に実践する。	地域と学校が一体となって人権教育に取り組んでいるが、学校がこの4月施行の条例を意識して、すでに福祉教育として3～6年カリキュラムを固定され、外部講師特別授業を実施していることを知って感心した。
生徒指導	「学校いじめ防止基本方針」に則り、問題行動の初期対応から組織的に取り組んでいる。	「よくできた」50%「できた」50% 『約束やきまりを守っている』児童 84%、保護者 93% ○学校いじめ対応チーム本部が機能している。	○今後も、週末ごとの児童記録を教職員で共有したり、問題行動に対するの初期対応や複数指導体制を確立したりすることで、未然防止や見守り体制の教化、早期解決につなげる。	チーム弥生としていじめ0をめざすとともに、いじめられたと思った子に寄り添い、早期発見・初期対応を心がけ、必ず報告する学校の姿勢に安心できた。

## 6 学校自己評価の実施状況について

時期	内容
5月	○第1回評価委員会(重点目標と教育活動の状況について説明) ○運動会参観
6月	○オープンスクール参観と施設・設備の観察
7月	○第2回評価委員会(1学期の教育活動について)
9月	○第3回評価委員会(学校評価の観点について)
10月	○人権参観と施設・設備の観察 ○音楽会参観
11月	○第4回評価委員会(学校評価と今年度の教育活動について) ○地域総合防災訓練の様子を参観
12月	○保護者・職員アンケート実施
1月	○児童アンケート実施
2月	○第5回評価委員会(学校関係者評価委員会を受けて)

## 7 学校関係者評価委員会の活動について

時期	内容
5月16日	第1回 委員委嘱 学校経営方針と今年度の活動について ○運動会参観
9月30日	第2回 法に基づくコミュニティースクール移行に伴う学校・家庭・地域の連携活性化支援に係る学校訪問
2月22日	第3回 保護者アンケートと今後の取り組みについて 今年度の反省と次年度の課題について 等
通年	学校・地域行事への参加及び啓発(学校だより・ホームページ)

※学校自己評価…外部(児童生徒・保護者・地域等)アンケートの実施を含む

## 8 学校評価の公表について

時期	手段	内容	添付
4月	学校だより ホームページ	今年度の学校教育目標や指導方針について	
2月臨時号	学校だより ホームページ	12月実施の保護者、1月実施の児童アンケート結果及び、学校関係者評価委員会の意見を学校の考え方と共に公表	○

※ 公表の具体がわかる印刷物等がある場合には添付願います